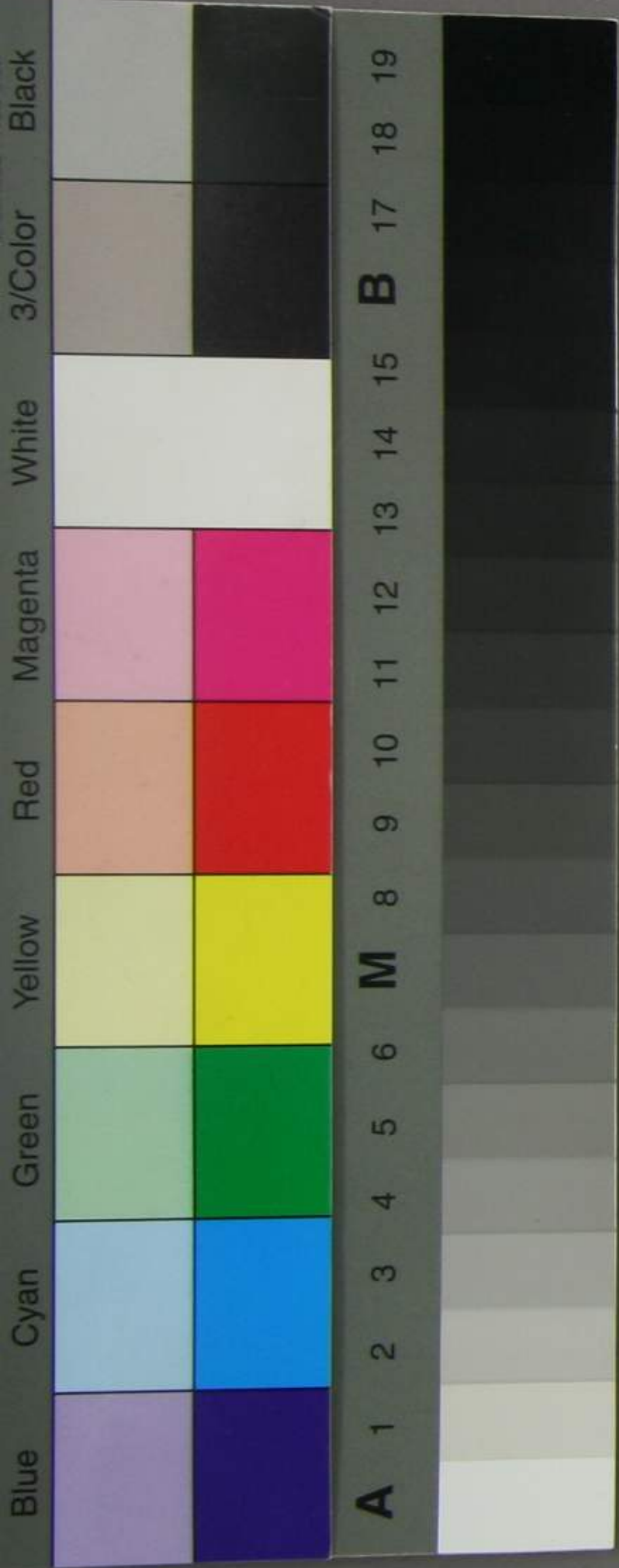




114
A 4319



大政大臣三條實美殿

陸軍部山縣有朋

明治九年四月十三日

東京衛戍部署より東京衛戍部
別部別部別部別部別部別部
別部別部別部別部別部別部
別部別部別部別部別部別部

三條實美殿
陸軍部山縣有朋



東京衛戍部署及東京衛戍服務概則別冊之通
相定候條此旨相達候事

明治九年四月十一日

陸軍卿山縣有朋

東京鎮臺

大正十一年四月
陸軍卿邸寄贈



一東京ノ衛戍ハ歩兵一聯隊騎兵一大隊砲兵二大隊
工兵二小隊輜重兵二小隊ヲ以テ内若干ノ隊伍
ヲシテ官省金庫及ヒ武庫等ヲ守衛セシム
凡ソ守衛ハ別ツテ五ト爲ス則チ左ノ如シ

其一 衛戍主衛

其二 儀仗衛兵

其三 守衛兵

其四 分遣哨兵

其五 守兵

一主衛兵ハ衛戍中最大ノ隊伍ニシテ東京内樞要ノ
所ニ置キ以テ諸衛兵ノ首部ト爲シ東京中一般ノ

靜謐ヲ維持スルヲ以テ其任トス故ニ兎徒ヲ鎮壓
シ若シ警視部力能ハスシテ助力ヲ請フコトアル時
ハ其請ニ應シ之ヲ援助スル等總テ不虞ヲ警シム
ルニ供スル者トス

一主衛兵中ヨリ一隊ノ選哨ヲ出ス其人員概テ兵卒
四名ニシテ下士一名之ヲ導キ時々衛戍線内ノ諸
哨所ヲ巡行ス

一儀仗衛兵ハ則テ儀仗ノ哨兵ニシテ太政官陸軍省
ノ正門等ニ置ク

一守衛兵ハ則テ警備ノ哨兵ニシテ紙幣寮及ヒ武庫
等ニ置ク

一分遣哨兵ハ衛戍線外ノ哨兵ニシテ神奈川砲臺及

ヒ赤羽根火藥庫等ニ置ク

一守兵ハ則テ控兵ニシテ各兵隊中翌日衛兵ノ勤務

ニ當ル將校下士兵卒ヲ以テ之ヲ編制シ常ニ武装

ノ準備ヲ爲シ緩急ニ應シ直ニ其哨所ニ發遣スル
者トス

一各種ノ衛兵ハ其名稱異ナリト雖モ其服務ハ皆同
一トス

其勤務ノ方法隊伍ノ編制暗號ノ布達及ヒ夜巡邏
哨整列分列式等ハ別ニ揭示ス

一上條ノ方法ニ據リ東京衛戍ノ隊伍及ヒ其人員ハ
則テ左表ノ如ク部署配布ス

但シ諸衛兵大尉ノ附屬スル者ヲ一等トシ中少

尉ヲ二等トシ下士ヲ三等トス

東京城衛戍諸兵隊部署及人員表

考 備	番 兵 數	喇 叭 卒	兵 卒	伍 長	軍 曹	中 少 尉	大 尉	哨 地	衛 兵 區 分			守 兵	傳 令 騎 兵
									等 級	一 等	二 等		
傳令騎兵ハ衛戍司令ニ屬シ命令書翰使ヲ勤ム	一	二	四十	四	二	一	一	陸軍省	主衛兵	備衛兵	守衛兵	分遣哨兵	
	三	一	十二	一	一	一		太政官					
	五	一	二十	二	一	一		陸軍省					
	五	一	二十	一	一	一		紙幣寮					
	五	一	二十	二	一	一		青山火藥庫					
	四	一	十六	一	一	一		赤羽根火藥庫					
	四	一	十六	一	一	一		泉新田火藥庫					
	二	一	二十四	四	二	一		神奈川砲臺					
		九	百六十八	十七	十	六	二	各隊屯營					
			二	一				衛戍司令署					

一 衛戍諸兵隊ノ司令ハ鎮臺司令長官ヲシテ兼掌セ
シ其僚屬ニ將校下士若干名ヲ置キ以テ衛戍ノ
事務ニ任シ諸兵隊ヲシテ畫一ノ令ヲ守リ不虞ヲ
警メ緩急ニ應シ直ニ寇賊ニ禦ルノ備ヲナサシム
其人員左ノ如シ

衛戍司令官 一名

同次官 佐官 一名

同副官 尉官 一名

同下副官 曹長 一名

同書記 軍曹或 伍長 二名

一 衛戍司令官ハ兼テ陸軍卿謁定スル守備ノ方畧衛
兵ノ部署哨兵番兵ノ布置ニ從ヒ衛戍線内ヲ警備

スルヲ主務トス故ニ衛兵ノ部署等ヲ變スルニハ
必ス陸軍卿ニ上申シ其決ヲ取ルニ非サレハ施行
スルヲ許サス

衛戍次官ハ司令官ノ命ヲ奉レ衛兵ノ服務ヲ指揮
シ軍紀風紀ノ監視ヲ爲レ晝日ハ諸哨所ヲ巡視シ
人員ヲ檢査シ勤惰ヲ督シ又夜間モ時ヲ以テ巡視
スル晝日ノ如クス
衛兵勤務中將校下士及ヒ兵卒法ヲ犯シ軍律ニ係
ル者ハ之ヲ陸軍卿ニ申告シ懲罰ニ係ル者ハ司令
官自ラ適當ニ之ヲ處斷シ該隊ニ達ス
日々ノ定例報告及ヒ臨時ノ報告ハ定期ヲ以テ之
ヲ陸軍卿ニ呈スル者トス

一衛戍諸兵隊ノ佐官及ヒ尉官ハ其兵種ヲ論セス其
官等ト停年トノ順次ニ從テ一列ノ週番順次ヲ立
メ之レヲ巡察將校ト云フ其人員左ノ如シ

少佐 一名

大尉 一名

中少尉 二名

週番巡察將校ハ衛戍司令官ニ屬シ衛兵ノ監視ニ
任シ晝夜時々諸哨所ヲ巡察シ其勤惰等ヲ視察シ
自ラ其哨所ノ牒簿ニ其時限姓名ヲ記シ之レニ捺
印ス而シテ巡察中ノ事由ヲ細カニ衛戍司令官ニ
報告ス其交代ハ毎日曜日十二時ヲ以テ夜間ハ
官舎ニ直宿セサルヲ以テ勤務ノ外ハ外出スルヲ

許サス

衛戍服務概則

例言

一此書ハ東京城衛戍服務ノ綱領ニシテ素ヨリ一般ノ衛戍ニ適用スルモノニアラス而シテ其成則タルモ唯任務ノ大綱ヲ揭示スルモノナルカ故ニ哨所ノ模様守地ノ位置及ヒ時候ノ變換等ニ因リ衛戍司令官ハ時々陸軍卿ニ上申シ臨時ニ變更スルコアル可シ

一書中ニ揭示スル處ノ服務ハ概テ平時ノモノニ係ル故ニ其東京戒嚴ノ日ニ當テハ陸軍卿更ニ衛戍司令官ニ諭シ別ニ守備ノ方畧衛戍ノ部署ヲ定メシム可キヲ以テ其令ヲ奉ス可シ

一此服務概則ハ他日要塞部ヲ設置シ衛戍ノ部署ヲ
定ムル時ハ全ク廢止ニ屬スル者ナリ

衛戍服務概則

總則

第一條 東京衛戍諸兵隊ノ司令ハ鎮臺司令長官ヲ
シテ兼掌セシメ其僚屬ニ將校下士若干員ヲ置キ
以テ衛戍ノ事務ニ任シ諸兵隊ヲシテ畫一ノ令ヲ
守リ不虞ヲ警ジ緩急ニ應シ直ニ寇賊ニ禦ルノ備
ヲナサシム其人員左ノ如シ

衛戍司令官

東京鎮臺司令長官之ヲ兼ヌ

同次官 佐官 一名

同副官 尉官 一名

同下副官 曹長 一名

同書記

軍曹或
伍長

二名

第二條 衛戍司令官ハ兼テ陸軍卿畫定スル守備ノ
方畧衛兵ノ部署哨兵番兵ノ布置ニ從ヒ衛戍線内
ヲ警備スルヲ任務トス故ニ衛兵ノ部署等ヲ變ス
ルニハ必ス陸軍卿ニ上申シ其決ヲ取ルニ非サレ
ハ施行スルヲ許サス
衛戍次官ハ司令官ノ命ヲ奉シ衛戍ノ服務ヲ指揮
シ軍紀風紀ノ監視ヲ爲シ晝日ハ諸哨所ヲ巡視シ
人員ヲ檢査シ勤惰ヲ正シ又夜間モ時ヲ以テ巡視
スル晝日ノ如クス
衛兵勤務中將校及ヒ下士兵卒法ヲ犯シ軍律ニ係
ル者ハ之ヲ陸軍卿ニ上申シ懲罰ニ係ル者ハ司令

官自ラ適當ニ之ヲ處斷ス可シ

日々ノ定例報告及ヒ定例外ノ報告ハ一週日毎ニ
必ス陸軍卿ニ呈ス可シ

第三條 衛戍ノ服務ハ衛戍線内一般ノ靜謐ヲ維持
シ兒徒ヲ鎮壓シ兼テ官省府庫等ヲ警守シ以テ其
不虞ニ備ル者ナリ

第四條 衛戍服務ノ區別大畧左ノ如シ

- 其一 分遣隊護衛兵及ヒ外哨衛兵
- 其二 衛戍主衛守衛兵命令使及ヒ書翰使
- 其三 儀仗衛兵
- 其四 巡察
- 其五 守兵

其六 使役

其二其三其五及ヒ其六ハ二十四時毎ニ交代シ其
一其四ハ一週或ハ數週毎ニ交代セシム

第五條 其分遣隊及ヒ外哨衛兵ハ衛戍線外ノ支隊
トシ護衛兵ハ至重ノ俘囚或ハ彈藥糧食等ノ輸送
ヲ護衛スル者ナリ共ニ一部ノ隊伍ヲ以テ編成ス
即チ大隊中隊小隊又ハ分隊等ニ於ル如ク其定員
ノ將校下士之ニ附屬ス但シ大隊長ハ半大隊以上
ニ附屬スルヲ常例トス時トシテハ半大隊ニ充タ
サル部隊ニモ屬スルヲアリ其副官下副官ハ常ニ
大隊長ニ從屬ス可キモノトス

第六條 衛戍主衛ハ衛戍哨兵中ノ首部ニシテ衛戍

線内樞要ノ地ニ置キ守衛兵ハ金庫武庫等ニ置ク
命令使及ヒ書翰使ハ本省鎮臺或ハ衛戍司令官ニ
屬ス此兩使ハ衛戍司令官ノ命令アラサレハ整列
場ニ出ルヲ要セサルモノトス

第七條 儀仗衛兵ハ官省ノ正門ニ置キ或ハ大臣ノ
送迎鴻臚ノ燕禮朝儀祭典等ノ時警守ニ供スルモ
ノナリ

第八條 巡察ハ各兵隊ノ將校下士ヲ課シ晝夜巡察
ノ任ヲ主トシテ以テ諸哨所ノ勤怠ヲ監視シ其服
務ヲ整正セシムルモノナリ

第九條 守兵ハ臨時ノ分遣隊或ハ邏哨等ニ充ツル
爲メニ準備セシ隊伍ニシテ其次日服務ニ當ル可

キ將校下士及ヒ兵卒ヲ以テ編制ス此勤務ニ當ル
將校ハ週番大隊長ノ許可ヲ以テ外出スルヲ得ル
ヲアリト雖モ其下士兵卒ニ於テハ絶テ之ヲ許ス
ヲナレ而シテ衛戍司令官之ヲ要スレハ夜間ト雖
モ服裝ヲ脱クヲ許サス且其司令ハ屢々點呼ヲ爲
シ人員ヲ檢査ス可シ若シ其司令中隊長ニ非サレ
ハ週番大隊副官之ヲ爲ス者トス

第十條 使役ハ武器又ハ糧食被服等ノ運輸其他ノ
雜役等ニ服務スルモノナリ

第十一條 衛兵ノ人員ハ概シテ哨所ノ輕重ニ從フ
ト雖モ又其配置ス可キ番兵ノ數ニ應シテ之ヲ定
ルヲアリ然ルモハ一所ニ三名或ハ四名ヲ以テ算

シ二十四時間ニ各員互ニ六時乃至八時間ノ番兵
ヲ務メムルヲ例トス

凡テ衛兵ハ止ムヲ得サル事故アルニ非サレハ必
ス同隊ノ下士兵卒ヲ以テ編制ス可シ平時ハ少ク
モ三夜ノ休憩ヲ得セム可シ

第十二條 風紀衛兵廳舍衛兵及ヒ軍旗番兵等ノ服
務ハ營内使役ト同一ニシテ衛戍ノ服務ト同シカ
ラスト雖モ服役ノ順次ヲ定ムルニハ亦衛戍服務
ノ内ニ算入ス可シ

第十三條 凡テ各哨所ノ守衛ハ務テ其近傍屯營ノ
兵隊ヨリ取ルヲ要ス

第十四條 各哨所ハ其警備ノ輕重ニ應シテ番號ヲ

附ス而シテ本日上番ノ士官中高級若クハ故參ノ
者士官ノ司令ス可キ哨所中第一哨所ノ令ヲ司リ
第二ノ士官ハ第二哨所ノ令ヲ司トル亦故參ノ軍
曹ハ軍曹ノ司令ス可キ哨所ノ令ヲ司トリ新參ノ
軍曹ハ士官ノ司令スル哨所ニ附屬ス伍長ニ在テ
モ其故參ノ者ハ伍長ノ司令ス可キ哨所ノ令ヲ司
トリ新參ノ者ハ軍曹ノ司令スル哨所ニ附屬ス可
シ
第十五條 砲兵工兵ハ砲廠及ヒ工廠ノ守衛ヲ爲ス
若シ歩騎兵ノ人員寡少ニシテ定例ノ休憩ヲ爲ス
能ハサル時ハ衛戍ノ服務ヲ爲サシムルヲアリ
衛兵ノ當直

第十六條 諸隊ノ將校ハ皆新故ノ順序ヲ以テ衛兵
ノ當直ヲ定ム故ニ週番大隊副官ハ當直簿ヲ案シ
テ各將校ニ其當直ヲ達ス可シ而シテ當直終ル者ハ
之ヲ牒簿ニ記入ス可シ
第十七條 中隊長ハ別ニ同職中ニテ輪番ヲ立テ中
少尉ハ相混シテ輪番ヲ立可シ但最初ニ故參ノ中
尉出勤シ次ニ故參ノ少尉出勤ス餘ハ之ニ準ス可
シ
第十八條 凡ソ將校ハ其隊長ノ許可ヲ得サレハ互
ニ當直ヲ交換スルヲ許サス
第十九條 衛兵ノ當直ヲ免除スヘキ將校左ノ如シ
其一 大隊長副官或ハ衛戍副官ヲ代理スル尉

官但シ此尉官ハ縦ヒ其中隊衛戍服務ノ爲メニ出務スト雖モ之ト同行スルヲナ

其二 病患或ハ免許ヲ得テ歸省或ハ休暇スル者ハ將校下士及ヒ兵卒ノ別ナク皆之ヲ免除ス

當直ノ將校病患ニ因テ不勤ノ時ハ次番ノ者之ニ代ル

第二十條 下士ハ諸中隊ノ者皆混同シテ當直輪番ヲ立ツ故ニ下副官ハ軍曹ト伍長ト各別ニ當直簿ヲ製シ置キ簿面ノ順序ヲ追テ當直ヲ命ス其順序ハ中隊ノ戰列位次ニ從ヒ各中隊中ニテハ新故ノ

順ニ從フ可シ

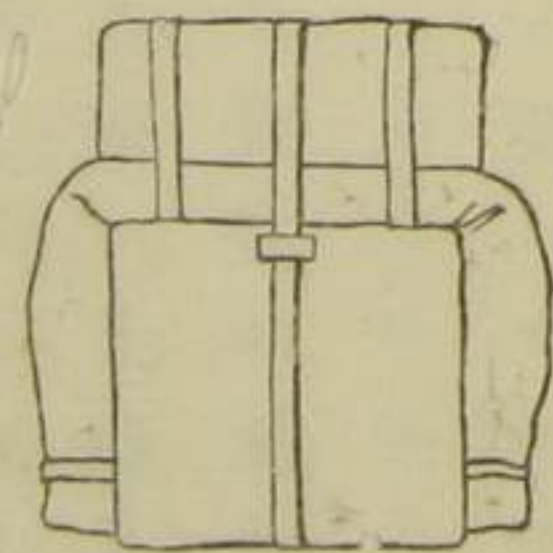
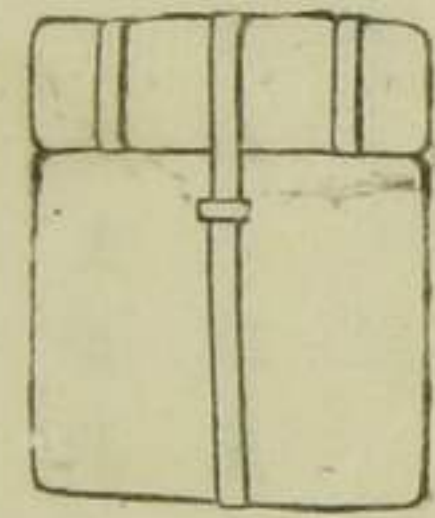
第二十一條 兵卒ノ當直ハ一中隊毎ニ輪番ヲ立ツ其中隊ノ曹長當直簿ノ順序ニ據テ之ヲ命ス其順序ヲ定ムル法ハ中隊ノ左右翼ヨリ始メ逐次ニ中央ニ至ル但兵卒ハ各中隊ヨリ齊等ノ割合ニテ所要ノ人員ヲ取リ之ヲ以テ衛兵ヲ編制スル者トス

衛兵ノ編制及ヒ被服ノ裝法

第二十二條 衛兵編制ノ稍前ニ報スル「アツサン」ルノ號音ニ應レテ各中隊ノ廻番軍曹伍長ハ其隊中上番兵卒ノ室内ニ行キ身體ハ勿論被服背囊等ノ裝法其他手銃及ヒ胴亂中ノ物品ニ至ルマテ細ニ之ヲ檢査ス可シ

第二十三條 交代ノ若干時前ニ各隊其屯營内ニ於テ上番ノ衛兵ヲ編制シ武裝檢査ノ後更ニ之ヲ整列場ニ赴カシム其法歩兵内務書營中日課勤務中第十條及ヒ第十二條ニ示ス如シ

第二十四條 衛兵ハ別ニ命有ラサレハ畧帽畧衣及ヒ脚絆ヲ着シ背囊ヲ負フ其背囊中ニハ其附屬品ヲ納ム可シ
背囊ニ毛布及ヒ外套ヲ附裝スルノ法通常三アリ衛戌副官時々布令シテ其中ツ一法ヲ定ム其三法左圖ノ如シ



衛戌整列式

第二十五條 衛戌衛兵ノ上番兵ハ悉ク整列場ニ集合シ檢査ヲ受ク之ヲ整列式ト稱ス通常ハ正午ノ頃之ヲ行フ者トス若シ雨天等ニテ整列場ニ集合爲シ難キハ各隊ノ屯營内ニ於テ之ヲ行フ步兵内務書營中日課勤務中第十三條ニ示ス如シ
第二十六條 各衛兵ハ其隊伍ヲ整正シ整列場ニ赴

將校附屬セサル時ハ下副官之ヲ引率ス將
校附屬スルトキハ下副官待令隊ヲ引率ス
ク可シ
ニ在テ整列場ニ近ツケハ「マルス」ヲ吹奏ス各中隊
ノ曹長週番ノ軍曹伍長ハ別ニ一隊トナリテ上番
兵ノ後方ニ從ヒ整列場ニ到リテ其上番兵ニ對向
シテ整列ス之ヲ稱シテ待令隊ト云フ而シテ此下
士ハ背囊及ヒ外套ハ負ハスト雖モ服裝ハ上番兵
ニ異ナルイナレ週番將校モ亦皆整列場ニ出場シ
其待令隊ノ前ニ並列ス又下番ノ衛兵ヨリ兵卒ヲ
シテ上番兵ヲ迎ヘシムルキハ其兵卒ハ上番兵押
伍列ノ線上ニ在テ誘導スヘキ隊ノ後方ニ立ツ可
レ
整列式ノ時上番兵ハ戰列ノ位次ニ從ヒテ位置ス

之ヲ示スハ衛戍下副官ノ任トス

第二十七條 衛戍司令官ハ整列場ニ出場シ躬ヲ檢
査スルヲ常トス亦或ハ次官ヲシテ之ヲ代理セシ
ムルコアリ

第二十八條 檢査終レハ上番兵分列式ヲ行フ其分
列式ノ令ハ上番ノ將校中高等故參ノ者之ヲ司ト
ル其哨所ニ赴クニハ隊伍ヲ整正シ肅然トシテ行
進ス可シ

命令ノ布達

第二十九條 整列式ノ時衛戍司令官ノ命令ノ諸隊
ニ布達ス可キ時ハ衛戍副官分列式畢テ後喇叭手
ニ「アロラルドル」即チ布令ノ譜ヲ吹奏セシメ以テ

諸隊ノ副官及ヒ下士ヲシテ圈列ヲ作ラシム其圈
列ノ法ハ各隊ノ副官及ヒ下副官ハ最内列トシ第
二列ヲ曹長第三列ヲ軍曹トス伍長ハ最外列ニシ
テ軍曹ノ列ヲ距ル凡ソ四歩ノ地ニ立テ外方ニ面
シテ捧銃ヲナス是ニ於テ衛戍副官命令ヲ布告シ
又或ハ之カ辨解ヲ爲ス

隊伍及ヒ諸官ノ位置

第三十條 衛兵ノ隊伍其兵員九名以下ナレハ之ヲ
一列トナシ十名以上ナレハ二列トナス共ニ兵卒
ノ身ノ長ケニ隨テ並列シ右翼ヨリ左翼ニ番號ヲ
附ス而シテ此番號ノ順序ヲ逐テ番兵ヲ命スル者
トス

第三十一條 其兵員ノ多寡ヲ論セス常ニ之ヲ二部
或ハ四部ニ分ツラ法トス是レ事ニ臨ミ放火ヲ爲
スニ一時ニ發射シ一時ニ止射スルノ思ナカラシ
爲メナリ

第三十二條 衛兵司令將校ナルキハ拔劍シテ其隊
ノ中央前二歩ノ地ニ位シ其他ノ將校ハ押伍列ニ
加ル第一ノ軍曹ハ第一列ノ右翼ニ第二ノ軍曹ハ
左翼ニ其他ノ軍曹伍長ハ皆押伍列ニ在ル可シ
第三十三條 軍曹衛兵ノ司令タル時モ其隊ノ右翼
ニ在ルコトハ猶前條ノ如シ而シテ第一ノ伍長ハ左
翼ニ第二ノ伍長ハ押伍列ニ在ル可シ又伍長其司
令タル時ハ隊ノ右翼ニ立ツ尙他ニ伍長在レハ之

ヲ左翼ニ列ス喇叭手ハ衛兵ノ司令將校下士タル
ニ論ナク第一列ノ右方ニ歩ノ地ニ在ル可シ

衛兵交代法

第三十四條 下番衛兵ハ交代ノ時限前ニ至レハ負
囊執銃シ衛舍ノ前ニ於テ其左方上番衛兵ノ爲ニ
餘地ヲ置テ整列ス若シ其場所狹少ニシテ一側ニ
兩衛兵並列シ難キ時ハ上番衛兵ヲ衛舍ノ方ニ容
レ下番衛兵ハ彼方ノ側ニ列シテ衛舍ニ對向ス而
シテ上番衛兵凡ソ五十歩ノ地ニ來レハ下番衛兵
整頓ジテ肩銃ヲナシ喇叭手「マルス」吹奏ス上番
衛兵モ亦下番衛兵ヲ距ル凡ソ五十歩ノ地ニ到レ
ハ肩銃ヲナシ喇叭手ヲシテ同譜ヲ吹奏セシメ而

シテ下番衛兵ノ左方若クハ前方ニ到レハ停止正

面シテ整頓シ然ル後兩衛兵共ニ建銃ヲナス

第三十五條 建銃ヲナシタル後兩衛兵ノ司令ハ互

ニ進シテ敬禮ヲ行フ其法將校ナレハ劍ヲ以テシ

下士ナレハ肩銃ヲ爲シテ左指ヲ添ユ而シテ後上

番衛兵ノ司令ニ職務ニ關スル百事ヲ傳告シ又軍

曹モ同シク上番衛兵ノ軍曹ニ職務上ノ諸件ヲ傳

告ス可シ

第三十六條 上番衛兵ノ司令其隊ノ故參伍長ヲシ

テ衛舍並ニ舍内備附ノ諸物具ヲ請取ラシム此伍

長ヲ衛舍掛伍長ト稱ス又第二ノ伍長ヲシテ兵卒

ニ番號ヲ附シ番兵ノ交代ヲ指揮セシム之ヲ番兵

掛伍長ト稱ス此伍長ハ下番衛兵ノ同職伍長ヨリ
職務上ノ申讀キ等ヲ細ニ承知シ置ク可シ

第三十七條 番兵ノ交代終レハ兩衛兵共ニ肩銃ヲ
爲シ下番衛兵ハ若干歩前進シテ停止ス兩隊ノ喇
叭手ハ「マルス」ヲ吹奏シ下番衛兵停ルニ隨テ吹奏
ヲ止ム是ニ於テ下番衛兵ハ銃劍ヲ脱シ更ニ肩銃
シテ側面行ヲ爲シ隊伍ヲ正シ靜肅ニ歸營ス可シ
第三十八條 下番衛兵既ニ退去スバ上番衛兵ノ
司令ハ兵卒ノ武器ヲ檢査シ之ヲ畢レハ右回或ハ
側面ヲ爲サシノ棒銃ヲナシテ解散セシム兵卒ハ
衛舍ニ入ラハ其番號ノ順序ニ從テ銃ヲ銃架ニ置
ク可シ

衛兵司令勤務

第三十九條 衛兵司令ノ本務ハ其衛舍ニ揭示セル
警衛ノ諸守則ヲ能ク了知シ之ヲ軍曹及ヒ伍長ニ
教示シテ嚴密ニ警衛ヲ行ハシムルニアリ

第四十條 衛兵司令ハ其隊ヲ衛舍ニ頭在セシメタ
ル後番兵掛伍長ヲ引率シテ諸所ノ番兵ヲ巡視シ
又番兵ニ其守則ヲ試問シ若シ違フモノ有レハ直
ニ之ヲ改正ス可シ但シ軍曹ノ司令タル衛兵ニシ
テ伍長唯一名ノミ屬スル時ハ巡視ノ時伍長隨行
スルヲナシ而シテ巡視已ニ終リ衛舍ニ反レハ下士
兵卒ノ課役ヲ定ム其之ヲ定ムルニハ務テ平等ナ
ラシム可シ

第四十一條 衛兵司令ハ素ヨリ衛舎ニ於テ寢食シ
瞬時モ哨所ヲ離ルヽヲ許サヌ且常ニ服裝ヲ正ク
シ軍刀或ハ銃劍ヲ佩フ可シ其他ノ下士兵卒ハ胴
亂及ヒ服裝ヲ脱スルヲ許サヌ

第四十二條 衛兵司令ハ暫時モ部下ノ兵卒ヲシテ
哨所ヲ離レシム可カラス嚴ニ其職掌ヲ竭サシメ
亦屢點呼ヲ爲シ間々武裝呼集ヲナシテ以テ兵卒
ヲシテ迅速ニ執銃整列スルニ慣レシム可シ式日
等總テ市中人民雜沓ノ時ニハ殊ニ注意セサル可
カラス

第四十三條 衛兵司令夜間殊ニ注意ヲ加ヘ屢番兵
ヲ巡視シ衛戍主衛ハ邏哨ノ巡視等ヲ嚴密ナラシ

ム可シ

第四十四條 若シ之ヲ要スル時ハ衛兵交代前若干
分時ニ武裝セシ兵卒一名ヲ整列場或ハ屯營ニ遣
シ以テ上番衛兵ノ誘導ヲナサシム

第四十五條 起床ノ后衛兵司令部下ノ兵卒ヲ整列
セシメ細カニ其武器被服ヲ檢査ス可シ

第四十六條 衛舎ニハ常ニ其人員相應ノ彈藥ヲ納
レタル函アリ此函ハ衛戍司令官嚴重ニ鎖封シテ
火災ノ患無キ場所ニ之ヲ置クモノニシテ衛戍司
令官ノ命有ルカ又ハ形勢萬止ムヲ得ナル時ニ非
サレハ衛兵司令其鎖封ヲ破リ藥包ヲ配分スルヲ
許サヌ

第四十七條

衛戍主衛ノ衛舍ニハ不虞ノ準備トシ
テ常ニ左ノ個處ヲ揭示シ置ク可シ

其一 該區警視ノ分署

其二 援助ヲ乞フヘキ兵隊ノ屯營

其三 陸軍消防夫ノ屯處

第四十八條

衛戍主衛ハ人民一般ノ保護ヲ任スル
ヲ以テ司令タル者能ク其本旨ヲ體シテ警衛セサ
ル可カラス故ニ警視部力能ハスシテ助力ヲ請フ
コアル時ハ其請ニ應シ速ニ部下ノ兵一部ヲ分遣
シテ其逮捕等ヲ助ケシム其犯人ヲ逮捕セシ時ハ
該人ノ所轄ニ應シテ衛戍司令官或ハ警視部ニ護
送ス可シ但何等ノ事故アルモ部下總員ノ半數以

上ヲ分遣セシム可カラス

第四十九條

火災アル時ハ衛戍主衛司令先ツ兵卒
ヲシテ執銃整列セシメ陸軍消防夫ノ屯處ニ報知
シ而メ後伍長一名ト兵卒二名ヲ差遣シ火勢ヲ實
驗セシメ速ニ陸軍省鎮臺並ニ近傍屯營ノ風紀衛
兵ニ告知ス

第五十條

非常ニ際シテハ衛戍司令官ノ指揮ニ因
テ主衛司令ハ衛兵ヲシテ執銃整列セシメ喇叭手
ニ「セチラール」ノ號音ヲ吹カシメ若干ノ喇叭手ヲ
シテ諸衛兵ニ遣シ之ヲシテ亦「セチラール」ノ號音
ヲ吹カシメ以テ守兵ヲシテ速カニ其哨所ニ集合
セシム

第五十一條 諸衛兵中ノ者犯罪有ルノ報告アレハ主衛司令ハ衛戍司令官ニ其情實ヲ具狀シテ不時ニ其者ヲ交換セシノ或ハ哨所ニ於テ本務ノ外ニ雜役ヲ命シ以テ之ヲ懲戒セシム但シ哨所ニ於テ役スルモ番兵ヲ命シテ之ヲ懲治スルヲ禁ス

衛兵軍曹ノ職務

第五十二條 將校ノ司令タル衛兵ノ軍曹ハ其將校ニ隸屬シテ守衛ノ諸務嚴ニ行ハルヤ否ヲ監視ス故ニ百般ノ事ニ配意シ又司令衛舍ニ在ラサル際ハ已レ衛舍ニ在テ殊ニ諸件ニ注意ス可シ

第五十三條 日朝報告ノ時ニハ其哨所ノ簿牒ヲ持參シテ衛戍副官ニ諸事ヲ申告シ又筆紙墨等ノ受

取ルヘキ物品有ラハ之ヲ受取り衛舍掛伍長ニ渡シテ交代ノ時上番ノ同伍長ニ渡サシム可シ

衛兵伍長ノ職務

第五十四條 數名ノ伍長アル衛兵ニ在テハ其最故參ノ者衛舍掛ヲ勤メ下條ニ掲クル所ノ職ヲ掌ルヘシ其他ノ伍長ハ皆更番ニ番兵ノ交代ヲ指揮シ夜巡及ヒ邏哨ノ間查ヲ務ム唯伍長一名ノミ附屬セル衛兵ニ在テハ其伍長此諸務ヲ兼掌スル者トス

第五十五條 伍長ノ司令タル小衛兵ニ在テハ故參ノ一等兵卒ヲレテ番兵ノ交代ヲ指揮セシムルヲ得可シ

第五十六條

日朝ニハ使役兵ヲシテ衛舍並ニ其近傍ヲ掃除セシム是レ伍長ノ掌トル處ナリ

衛舍掛伍長ノ本務

第五十七條

衛舍掛伍長ノ主任ハ衛舍ノ清潔ニ注意シ舍内備附ノ諸器具即チ机腰掛定則ノ揭示板其他諸雜器ノ保存ヲ掌トルヲ等トス故ニ交代ノ時下番衛兵ノ同伍長立合ニテ舍内ニ掲ル目錄ニ照シテ諸器具及ヒ門戸窓牖等ニ至ル迄盡ク破損缺亡ナキヤ否ヲ檢視シ而シテ衛兵司令ニ其損缺ノ有無ヲ申告ス可シ若シ破損或ハ缺亡ノ品有ル時ハ下番衛兵司令ハ其次第ヲ詳細ニ取糺シ衛戌司令官ニ申告シ修理等ヲ乞フ可シ衛戌司令官ハ其

破損缺亡ノ事由ニ依リ衛兵司令若クハ他ノ者ニ命シテ之ヲ補償セシム若シ此伍長其損缺等有ルヲ衛兵司令ニ告ケサル時ハ已レ其責ヲ受ク可キナリ

第五十八條

此伍長ハ下番衛兵退去シタル後使役兵ニ傳票ヲ渡シ之ヲシテ薪炭燈油等ヲ求メ來ラシム可シ但其使役ハ最後ニ番兵ニ當ル者ヲ始メトシテ更番ニ之ヲ命スル者トス

番兵掛伍長ノ本務

第五十九條

番兵掛伍長ハ番兵ノ被服兵器等正整セルヤ否ヲ監視シ嚴ニ守衛ノ守則ヲ行ハシメ又交代ノ番兵ニ其守則ヲ辨知セシムルヲ任トス其

他番舍等ノ清潔ナルヤ否ヲモ監視ス可シ

第六十條 此伍長ハ哨所ニ到著スレハ衛兵司令ノ命ヲ受ケ先ツ各兵卒ニ番號ヲ附シ以テ番兵ノ順序ヲ定ム其番號ヲ附スルノ法二列ナレハ右翼前列兵ヲ第一ニシ同後列兵ヲ第二トシ前列第二ノ兵ヲ第三トス余ハ皆之ニ準ス

第六十一條 番號ヲ定メタル後番兵ノ交代ニ及フ其法假令ハ今三個處ニ番兵アリ之ヲ交代スルニ伍長先ツ右翼ヨリ番號ノ順序ヲ逐フテ三名ヲ呼出ス其兵卒ハ肩銃ヲナレ二三歩前進シテ一線ニ並列ス伍長其最故參ノ兵卒ヲ右トシ新故ノ順ニ隨テ更ニ之ヲ一直線ニ列シ而メ兵器被服等ノ檢

査ヲナス之ヲ終レハ腕銃ヲ命シ復伍セスレテ右向ヲ爲サシメ躬ヲ先頭ノ左ニ附キ下番衛兵ノ伍長又其左ニ附キ行進シテ交代ニ赴ク但四名以上ナル時ハ檢査ノ後之ヲ二列トナス可シ

第六十二條 其交代ノ順序ハ銃前番兵ヲ始メトレ次ニ最遠ノ守地ニ行キ夫ヨリ逐次ニ衛舍ノ近傍ニ及フヲ例トス其交代スヘキ番兵ヲ距ル凡六歩ノ地ニ到レハ伍長其隊ヲ停メテ肩銃ヲ爲サシム下番々兵モ亦同シク肩銃ヲナス是ニ於テ兩伍長上番々兵ヲ引率シテ更ニ前進シ之ヲ下番々兵ノ左方ニ置タ下番伍長ハ上番伍長ノ左方ニ立ツ上番伍長右左棒ケ銃ノ令ヲ下ス此令ニ應シテ兩

番兵相對シテ棒銃ヲ爲ス下番々兵低聲ヲ以テ其
守地ノ守則ヨ上番々兵ニ傳告ス若シ其傳告中謬
誤有ル時ハ下番伍長之ヲ改正シ或ハ又之ニ辨解
教示ヲ加フ然ル後上番伍長番兵ニ肩銃或腕銃ヲ
爲サシメ上番々兵ヲシテ番舍ノ内外等ヲ査見セ
シム

第六十三條 銃前番兵ヲ除クノ外總テ下番々兵ハ
交代ノ後其隊ノ左翼ニ附キ伍長ノ引率ニ隨テ衛
舍ニ還ルヲ法トス

第六十四條 交代全ク畢リ衛舍前ニ歸レハ下番伍
長ハ下番々兵ノ銃ヲ淨拭セシメ右回シテ衛舍ニ
對向セシメ棒銃ヲナシテ解散セシム然ル後衛兵

司令ニ其交代終リタル旨ヲ申報ス可シ其他凡テ
守衛中番兵ヲ交代セシムル時モ又同法ヲ以テス
唯下番伍長ノ在ラサルヲ異ナリトス

第六十五條 番兵ヲ配置スルニハ其第一故參ノ者
ヲ衛舍ノ銃前番兵トナシ第二ノ者ヲ遠ク且緊要
ナル守地ニ置キ其他衛舍ニ近ツクニ隨テ新參ノ
者ヲ置ク可シ凡ソ番兵ハ其音聲直ニ衛舍ニ達ス
ルカ或ハ中間ノ番兵ニ傳ヘテ之ニ相通ス可キ距
離ノ地ニ置クヲ通則トス

第六十六條 番兵ハ晝夜ノ別ナク二時毎ニ交代ス
ルヲ常トス然レモ時候ト形勢トニヨリ之ヲ要ス
ル時ハ一時毎ニ交代セシムルモノトス

番兵ノ職務

第六十七條 凡ソ番兵ハ常ニ銃ニ銃劍ヲ附シ腕銃或ハ肩銃ヲナシテ其守地ヲ往還シ或建銃シテ停立ス可シ其番舍内ニ居ル時ト雖モ銃ヲ離ス可カラス

第六十八條 番兵ハ姿勢動作嚴正ナラサル可カラス固ヨリ讀書吟哦喫烟等ヲ禁ス又謾リニ人ト談話スルヲ許サス且番舍ヨリ三十歩以外ニ行クヲ禁ス

第六十九條 番兵ハ其衛兵ニ屬スル伍長ノ指令ナク他人ト交代ス可ラス又衛兵司令若クハ下士立合ノ上ニアラサレハ他人ニ其守則ヲ語り或ハ他

人ヨリ更ニ守則ヲ受クルヲアル可ラス

第七十條 凡ソ番兵ハ百事ニ配意注目シ瞬間モ警戒ヲ怠ル可カラス故ニ雨雪ノ時ノ外番舍ニ入ルヲ許サス其番舍内ニ在ル時ト雖モ衛戍司令官同次官副官巡察ノ將校及ヒ隊伍等來ル時又ハ非常ノ音聲聽ユル時ハ直ニ番舍ヨリ出ツ可シ夜間ハ音聲ヲ聽クモ亦然リ

第七十一條 番兵若シ某處火災タルヲ知ラハ「火事」ト呼ハリ又盜賊暴客等ヲ視レハ「氣ヲ付ケ」ト呼ハル可シ此警報ハ番兵ヨリ番兵ニ傳ヘ以テ衛舍ニ通スルヲ要ス衛兵司令此警報ヲ聞カハ下士一名ト兵卒若干名ヲ遣ハシテ其騷擾ヲ鎮靜シ或ハ速

捕セシム可シ

第七十二條 銃前ノ番兵ハ非常號音即チ「セチヲー
ル」ノ譜ヲ聽クカ又ハ武裝セル兵隊衛戍司令官同
次官副官巡察ノ將校來ルアラハ「執レ銃」ト呼ハリ
以テ衛兵ヲシテ執銃整列セシム

第七十三條 戒嚴ノ日ニ在テハ夜間ハ人ノ番兵ニ
接近スルヲ許サス人來ラハ銃ヲ構ヘ高聲ヲ以テ
「誰カ」ト問ヒ其返答明瞭ナレハ通行ヲ許ス若シ問
「ト三回ニ及テ答ヘスシテ前進スル時ハ更ニ「止レ」
ト呼ビ尙停ラサレハ銃鎗ヲ構ヘテ行進ヲ遮阻ス
可シ但銃ニ裝填セシ時ハ「止レ」ト呼ビテ止ラサレ
ハ先ツ火撃ス可キ旨ヲ示ス可シ尙聞カサレハ畢

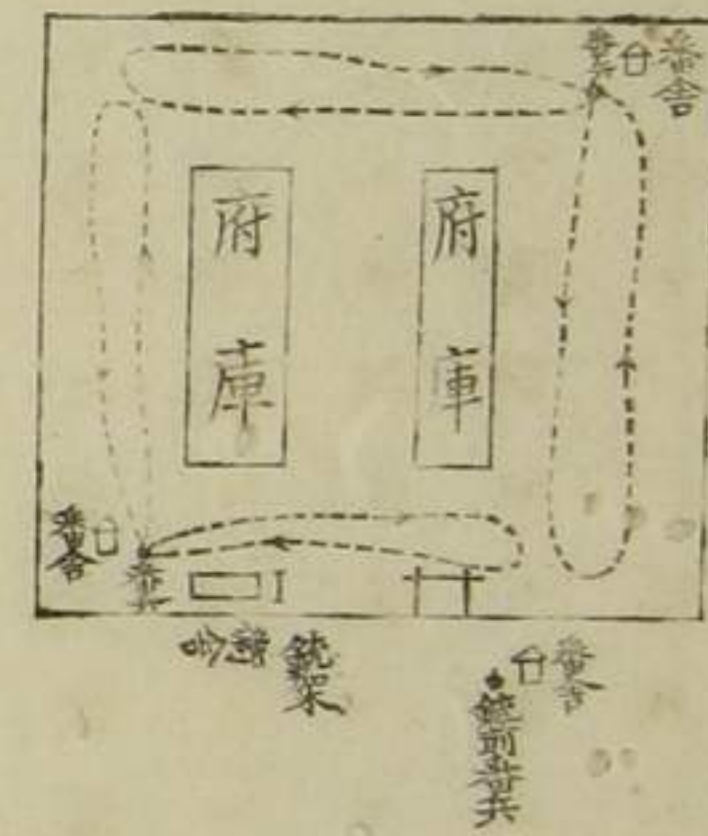
ニ放火シテ衛舎ニ警報ス可シ

第七十四條 府庫ノ番兵ニ在テモ一般ノ規則他ノ
番兵ト同一ナル者ハ前條揭示スルヲ以テ總テ之
ヲ守ル可シ

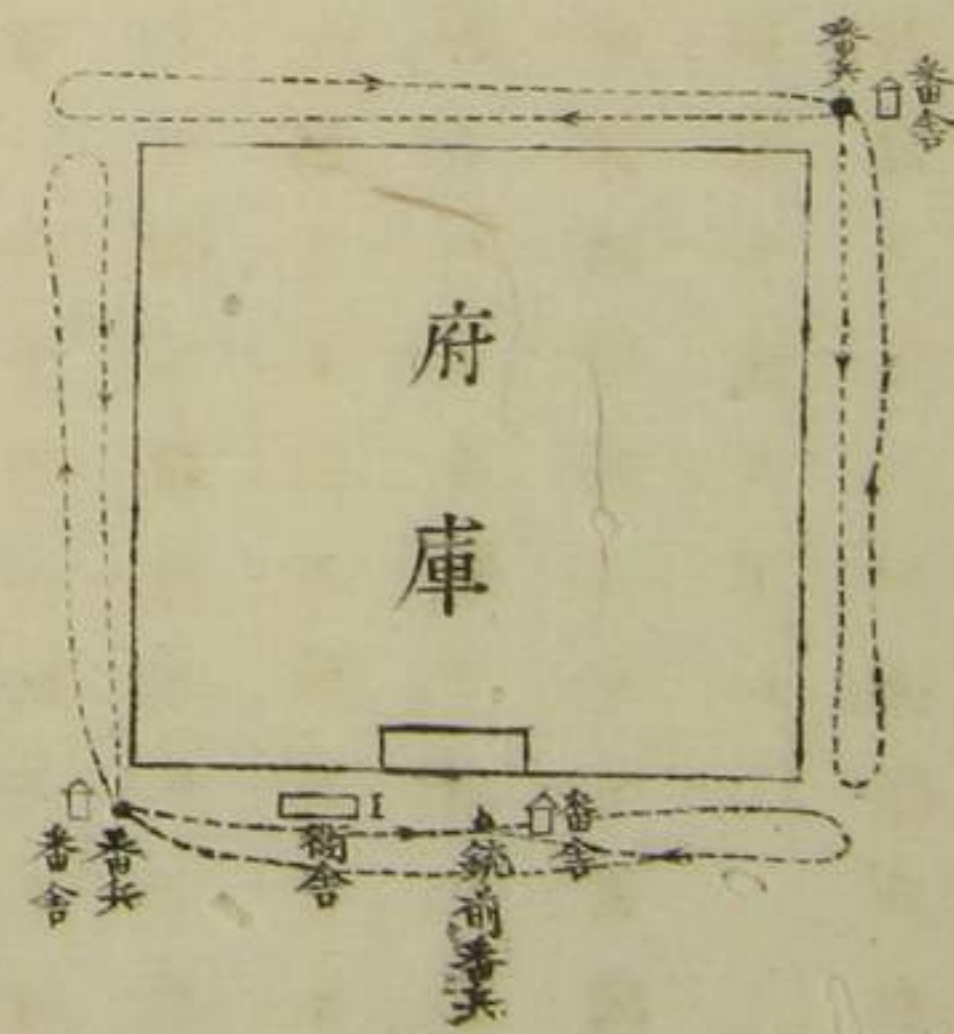
第七十五條 凡ソ府庫衛兵ノ番兵ハ動哨ニシテ夜
間ハ常ニ其周圍ヲ巡行ス可キヲ以テ番兵勤務中
ハ靜止シテ休憩ヲ爲スヲ許サス晝間ト雖モ亦時
々巡行ス可シ

第七十六條 府庫ノ周圍ニ牆壁アレハ番兵第一圖
ノ如ク配置ス牆壁ナキモノハ第二圖ノ如ク配置
ス

第一圖



第二圖



第七十七條 番兵巡行中若邏哨夜巡等ニ逢フハ
 静止シテ敬禮シ異事ノ有無ヲ申告ス可シ
 第七十八條 交代ノ時番兵巡行中ニテ其番舎ノ近
 傍ニ在ラサル時ハ其歸ルヲ待タス巡行スル地ニ
 到リ交代ス可シ

邏哨及夜巡ノ間查

第七十九條 銃前番兵武裝セル兵隊ノ來ルヲ見レ
 ハ構銃ヲ爲シテ誰カト問ヒ彼レ若シ邏哨ナリト
 答フル時ハ止レ伍長「邏哨」ト呼フヘシ此呼聲ニ應
 シ衛兵ノ伍長武裝セル兵卒二名ト携燈卒一名ヲ
 隨ヘテ十五步前進シ其兵卒ハ四步後ニ止メテ構
 銃ヲ爲サシメテ後復ヒ誰カト問フ「邏哨」ト答フレ
 ハ更ニ問號ニ進メト呼ヒ銃劍ヲ又構ス邏哨司令
 進ミテ問號ヲ云ハハ伍長應スルニ答號ヲ以テシ
 而シテ後兵卒ト俱ニ整列シ邏哨司令ヲシテ其前
 ヲ通過セシム番兵ハ此時肩銃ヲ爲ス可シ
 第八十條 邏哨及ヒ夜巡ノ間查ヲ任スル伍長兵卒

ハ預メ之ヲ定メ置キ常ニ其準備ヲ爲サシム可シ
第八十一條 若シ選哨司令言フ處ノ間號符合セサル時ハ伍長ハ衛兵ニ警戒ヲ報シ其選哨司令ヲ衛兵司令ノ處ニ誘引ス衛兵司令ハ之ヲ審覈シ若シ疑フ可キ有レハ選哨司令ハ勿論其隨行ノ兵卒モ共ニ拘留シテ直ニ衛戍司令官或ハ衛戍主衛司令ニ其旨ヲ報告ス可シ

第八十二條 若シ再度止レト呼フモ選哨停ヲサレハ番兵執レ銃ト呼ヒ躬ヲ銃劍ヲ構ヘ衛兵ハ衛舍ヨリ出テ防守ノ準備ヲ爲ス可シ
第八十三條 銃前番兵又ハ他ノ番兵ニ在テモ構銃ヲ爲シテ誰カト問ヒ彼レ答フルニ選哨ヲ以テモ

ハ更ニ止レト答號ニ進メト呼ヒ銃劍ヲ又構シテ選哨司令ノ答號ヲ聞ク可シ

第八十四條 將校下士ノ夜巡ヲ間查スルノ法ハ選哨ノ間查ニ異ナルヲナシ唯番兵ハ衛兵ノ伍長ヲ呼フニ伍長將校ノ夜巡又ハ下士ノ夜巡ト云フヲ異ナリトス然レモ上長官以上ノ夜巡ニ在テハ稍々異ナル處アリ其上長官ニハ上長官夜巡ト號シ衛戍次官ニハ衛戍次官ノ夜巡ト號シ衛戍司令官ニハ將官ノ夜巡ト號スル等ニシテ番兵此名號ノ答ヲ聞ケハ止レ銃ヲ上長官ノ夜巡若クハ將官ノ夜巡ト呼フ衛兵此呼聲ヲ聽クヤ直ニ執銃シテ整列ス此時衛兵司令ハ肩銃ヲ爲サシメ而シテ構

燈卒一名ト武装セル伍長一名兵卒二名ヲ引率シ
テ親ヲ十五歩前進ス其伍長以下ハ四歩後ニ停止
シテ構銃ヲナシ調査終レハ直ニ本隊ニ加列ス衛
兵司令ハ更ニ「誰カ」ト問ヒ彼レ上長官ノ夜巡等ノ
答ヲナセハ再ヒ問號ニ進メト呼ヒテ拔劍ス夜巡
ノ將官或ハ上長官問號ヲ云ハ之ニ應スルニ答
號ヲ以テ然ル後其衛兵ヲ檢閲ニ供シ且ツ諸事
ノ報告ヲ爲ス番兵ハ此時肩銃ヲナス可シ
夜巡ノ職務

第八十五條 衛戍司令官ハ夜巡出發ノ時限及ヒ巡
察スキ哨所ヲ定ム若シ哨所數多ナレハ二個ニ
別テ巡察セシム可シ

第八十六條 夜巡ハ分ツテ四種トス則チ左ノ如シ

其一 將校及下士ノ夜巡

但曹長給養掛軍曹ハ他ノ下士ト同伴
ス

其二 衛戍副官ノ夜巡

其三 衛戍次官ノ夜巡

其四 衛戍司令官ノ夜巡

第八十七條 隊附ノ將校下士夜巡ヲナスニハ該隊

週番副官ヨリ暗號ヲ受ク將校ハ該隊ノ兵卒一名

ニ提燈ヲ携ヘシメ下士ハ自カラ之ヲ携フ可シ

第八十八條 總テ將官上長官及ヒ衛戍副官ハ乘馬

ニテ巡察ス衛戍司令官及ヒ衛戍次官ハ衛舍等ヲ

檢査スルニ下馬セサル者トス

第八十九條 衛戍司令官ハ護衛トシテ伍長一名兵卒四名ヲ率ヒ内一名ハ提燈ヲ攜ヘ衛戍大官及ヒ副官ハ兵卒二名内一名ハ提燈ヲ攜フ可シ但護衛ハ諸衛兵ヨリ逐次ニ之ヲ出シ交代セシムル者トス

第九十條 隊附將校下士ノ夜巡ハ番兵其守地ニ在テ其服務ヲ爲スヤ否ヲ監視スル爲ニシテ其勤惰ヲ衛兵司令ニ申告シ翌朝報告ノ時衛戍司令官ニ之ヲ報告ス且ツ衛舎ノ牒簿ニ自己ノ姓名及ヒ時限等ヲ記載シ之ニ押印ス可シ亦巡察中非常ノ事件ヲ見聞スルハ其近傍ノ衛兵ニ告知シ速ニ衛戍

司令官ニ報告ス

第九十一條 甲乙ノ夜巡相會フ時ハ先キニ發見セシ者ヨリ問查ヲ爲スヲ法トス譬ヘハ甲ノ夜巡先キニ發見スル時ハ甲ヨリ「誰カ」ト呼ビテ靜止ス乙答ルニ「何夜巡」ヲ以テスレハ甲更ニ「止」ト呼ビ靜止セシメ而シテ甲モ亦自カラ「何夜巡」ト唱ヘ「間號」或ハ答號ニ進メト呼ビ甲乙ノ司令互ニ進ミ出テ將校ニ在テハ拔劍シ下士ニ在テハ銃ヲ又構シ暗號ヲ傳告シ了テ肩銃行過ス可シ但夜巡ノ邏哨ニ相會フモ亦之ニ同シトス

晝巡ノ職務

第九十二條 上長官ハ晝間諸哨所ヲ巡察シ勤怠及

其服務ヲ整正ス之ヲ晝巡上長官ト云フ其當直ハ隊附佐官及ヒ衛戍次官相混シ新故ノ順序ヲ以テ輪番ヲ立ツ可シ但衛戍次官事故アレハ衛戍副官之ニ代ル者トス

第九十三條 晝巡ハ上長官之ヲ爲ス者ト雖モ上長官寡員ナル時ハ衛戍司令官大尉ヲシテ之ヲ爲サシムルコアリ

第九十四條 銃前番兵ハ晝巡上長官ヲ視レハ直ニ「執レ銃」ト呼ビ衛兵ハ速ニ整列シ司令ハ衛兵ニ建銃ヲ爲サシメテ後之ヲ檢閲ニ供ス番兵ハ棒銃ヲ爲ス可シ

第九十五條 晝巡上長官ハ哨所ヲ監視シ其人員及

武器等ヲ檢査シ衛兵司令ヨリ其景況情態ヲ聞キ且番兵配布ノ位置ヲ正シ其守則等ヲ試問ス可シ

邏哨ノ職務

第九十六條 邏哨ハ衛戍線内ノ巡邏ニシテ夜間之ヲ爲サシムルヲ常トス然レトモ時トシテ晝間之ヲ爲サシムルコアリ

第九十七條 邏哨ノ人員ハ衛戍司令官之ヲ定メ其出發時限及ヒ通路ハ衛戍主衛司令之ヲ定ムル者トス時ノ景況ニ依リハ將校ヲシテ之カ司令ヲラシム又戒嚴ノ自ニ當リ衛戍主衛ヨリ邏哨ヲ出ス能ハサル時ハ守兵中ヨリ之ヲ服務セシム

第九十八條 邏哨司令ハ卒伍ヲ整正ニシ定メラレタル通路ヲ經テ行進ス若シ非常ノ事件又ハ暴動火災等ヲ間見スレハ近傍ノ衛兵ニ報告ス可シ

第九十九條 邏哨ハ日夕點呼後免許狀ヲ帶ヒスシテ市中ヲ徘徊シ或ハ醉倒亂暴シ亦ハ法令ニ背ク下士兵卒ヲ目撃スレハ之ヲ捕ヘテ本隊ニ送致シ其隊號及ヒ官姓名等ヲ衛戍主衛司令ニ報告ス可シ

第一百條 邏哨司令ハ番兵ノ勤怠ニ注目シ不正ノ件ヲ目撃スレハ其司令ニ通知ス可シ

第一百一條 邏哨ノ甲乙互ニ相會フ時其問查ノ法ハ夜巡ノ問查ト異ナルヲナシ

暗號ノ布達

第一百二條 暗號ハ日沒前衛戍副官其司令官ヨリ之ヲ受ケ密封シ命令使ヲシテ陸軍省鎮臺及ヒ各兵隊ノ週番副官ニ送達セシム

第一百三條 衛兵ノ暗號布達ハ日沒ニ於テ衛戍主衛ノ喇叭手ヲシテ命令ノ譜ヲ吹奏セシメ諸衛兵ノ下士ハ其哨所ノ順次ニ從ヒ並列シ肩銃ヲ爲ス衛戍副官ハ其人員ヲ檢査シ各哨所ノ稱號ヲ呼ハシメ而シテ「圈列作レ」ト令ス此令ニテ諸衛兵ノ下士ハ第一ノ圈列ヲ作り衛戍主衛ヨリ出ス伍長兵卒ハ第一圈列ヨリ四步ノ距離ニ第二ノ圈列ヲ作り外方ニ面シ棒銃ヲナシ之ニ近接スル者ヲ禁止ス

而シテ衛戍副官ハ第一衛兵ノ下士ニ耳語ヲ以テ
暗號ヲ傳ヘ第一ノ者ハ其左側ノ第二衛兵ノ下士
ニ傳ヘ順次ニ斯ノ如クシテ最終ノ衛兵下士ニ到
ル此下士ハ又衛戍副官ニ之ヲ報ス若シ暗號ニ誤
聞アレハ再ヒ同一ノ法ヲ以テ之ヲ正ス可シ

第百四條 副官暗號ノ傳達終レハ諸衛兵ノ夜間ニ
服務ス可キ巡察等ヲ命シ「圈列解ケ」ノ令ヲ下シ圈
列ヲ解散セシム諸衛兵ノ下士ハ各其哨所ニ歸リ
衛兵司令ニ暗號ヲ報知ス

第百五條 衛兵司令ハ軍曹伍長ヲ集合シ暗號ヲ傳
ヘ伍長ハ番兵ニ答號而已ヲ傳フ可シ

